

シラカンバ (シラカバ)

カバノキ科 ^かカバノキ属 ^{ぞく}(^{らくようこうぼく}落葉高木)

がくめい 学名 : *Betula platyphylla* えいめい 英名 : Japanese White Birch



- ・葉 : ^{さんかくじょうこうらんけい}三角状広卵形、^{じゅうきよし}重鋸歯、^{さんかくけい}三角形で先はとがる、^{きぶ}基部はほぼ^{いっちょくせん}一直線
おもて こ みどりいろ うら あわ みどりいろ そくみやく つい ようへい
表は濃い緑色、裏は淡い緑色、側脈が6~8対、葉柄あり
- ・幹 : 若木は褐色、成長して^{こなはくしよく}粉白色、^{よこなが ひもく}横長の皮目、^{しろ}白いはだに^{くろ}黒いへの字 (枝のあと)
^{じ えだ}
- ・枝 : 一年生枝は、^{くつきよく}ジグザグに屈曲、^{こえだ}小枝にイボイボ
- ・冬芽 : ^{ごせい}互生、^{ちよう えんけい}長だ円形で先端は尖る、^{せんたん とが}4枚の芽鱗、^{まい がりん}仮頂芽と側芽ほぼ同形、^{かちょうが そくが}皮目は円形
- ・アイヌの人たちは^{ひと}樹液を^{じゆえき}薬として^{くすり}飲んでいた、^の現在も^{げんざい}健康飲料^{けんこういんりょうすい}水などに^{りよう}利用
- ・^{かほ}果穂は^{かすい}下垂する

※ ^{かわ}カンバ : 皮が^{かわ}ガバガバはがれることから → ^{かわ}カンバ

- ・^ごカバ=アイヌ語の^{よこなが ひもく うすく}カリンバ : 横長の皮目で薄くはげる木、^き樹皮は^{じゆひ}雨の中^{あめ}でもよく^{なか}燃える^も
- ・^{かんば}樺 = ^{かしよく}華燭の典 (結婚式) ^{てん}中国では^{けっこんしき}カンバ類の^{ちゆうごく}灯火を^{るい}を^{とうか}華燭^{かしよく}という
^もよく燃えて^{とちゆう}途中で^ひ火が^き消えないことから^{えんぎ}縁起がよいとされる